

御所市西北窪二光寺廃寺の調査

現地説明会資料資料(2005年2月26日)

調査機関	奈良県立橿原考古学研究所
所在地	御所市西北窪
調査原因	県営圃場整備事業(葛城西地区)
事業面積	約26,000㎡(平米)
調査面積	約500㎡(平米)
主な遺構	古代寺院伽藍(基壇、礎石建物跡など)
主な遺物	瓦、せん仏、螺髪、須恵器、土師器
現地説明会	2月26日(土曜) 午前9時30分～午後4時 ※説明は随時行います。

1. はじめに

今回の調査は、県営の圃場整備事業が契機となり、2004年12月より調査を実施しています。

この遺跡の付近には、渡来系氏族の墓と考えられる北窪古墳群(6世紀後半)があり、南0.6kmには朝妻廃寺(渡来系氏族:朝妻氏の私寺)、南西2.5kmには高宮廃寺という古代寺院が知られています。今回の調査の結果、この地にも飛鳥時代の寺院が存在することを初めて確認しました。調査地は御所市西北窪に位置し、小字が「二光寺」と地元で呼称されていることから、今回発見した古代寺院を「二光寺廃寺」と命名しました。

2. 遺構の概要

今回検出した主要な遺構は基壇建物です。しかし調査した範囲は、基壇建物全体の東半分です。出土遺物からみて飛鳥時代(7世紀後半)に創建され、平安時代のうちに倒壊し、鎌倉時代には耕作地となったことがわかりました。

基壇 「乱石積み二重基壇」と呼ばれる基壇です。上・下2段からなる基壇で、その周りには地元産の自然石を積み上げています。基壇の南北長は約17.2m、東西長は12.5m以上あります。基壇上部はすでに削平されていますが、南西端の礎石据え付け位置に残る根石(礎石の下に敷いた石)の状況から、基壇の高さは現状よりも約50cmは高かった(推定基壇高1m以上)と推測できます。

礎石 現在の基壇上には、南北に4列、東西に5列の礎石(地元産の1m前後の自然石)の大半が残っていますが、現状では礎石の高さが不揃いで、水平ではありません。これは耕作の邪魔となった際に、掘り返されて再び埋められたためです。しかし各礎石の周りには当初のすえ付け穴(直径2m弱)が残っており、現在の礎石位置は本来の位置とあまり変わっていないことがわかりました。礎石は約3m間隔(中央部の南北間は3m以上)に設置されていたと考えられます。

建物 基壇周囲から多量の瓦が出土し、この建物が瓦葺きと考えられること、せん仏が数多く出土したこと、そして飛鳥時代の金堂の柱間は一般的に5間×4間であることから、この建物は寺院の中心建物である金堂の可能性が最も高く、南を正面とする建物と考えられます。

3. 遺物の概要

遺物には瓦・せん仏・螺髪・鉄釘があり、基壇周囲(上層が瓦廃棄層、下層が瓦屋根倒壊層)から

出土しました。

瓦 軒瓦には数種類ありますが、創建時の瓦と考えられるのは高宮廃寺、朝妻廃寺との同範瓦(同じ型で作られた瓦)で、複弁蓮華紋軒丸瓦、偏向唐草紋軒平瓦です。他に重弧紋軒平瓦や、少数ながら檜隈寺(明日香村所在)と同範の複弁蓮華紋軒丸瓦も出土しました。

せん仏 これまでに4種類を確認し、わずかに金箔の残るものもあります。大型多尊・方形三尊・方形六尊連立、そして方形十二尊連坐とみられるせん仏です。大型多尊せん仏は唐招提寺(奈良市)所蔵例のほか、夏見廃寺(三重県)出土例などと細部までが酷似します。これには「甲午口五月中」という紀年銘があり西暦694年を指す可能性があります。方形六尊連立せん仏は朝妻廃寺と同範で、方形三尊せん仏は石光寺(奈良県葛城市)のほか、夏見廃寺出土例などと酷似します。また方形十二尊連坐せん仏は、現在のところ二光寺廃寺独自のものとみられます。

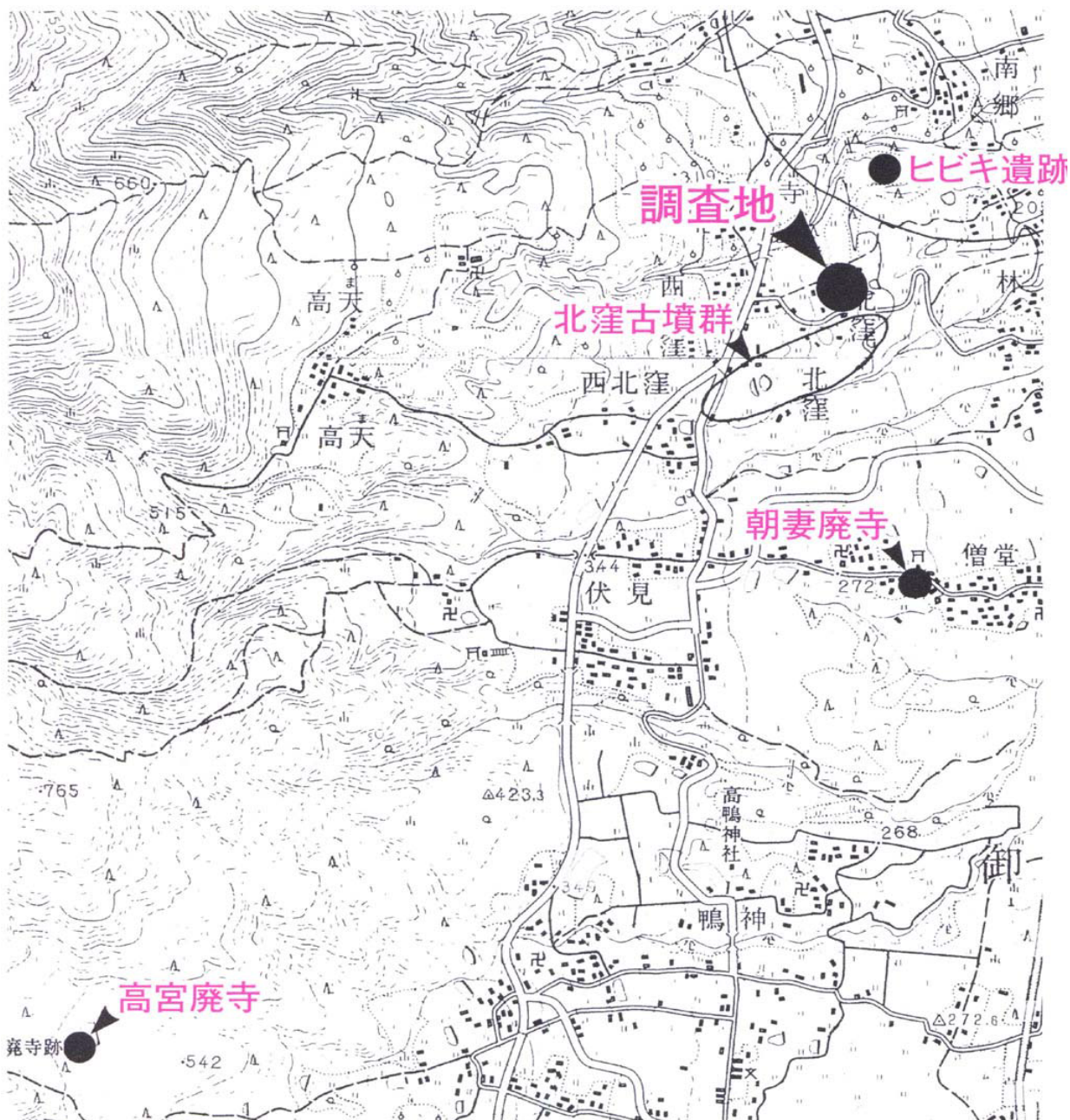
螺髪 土製の螺髪1点(高さ3.3cm、直径3.2cm)が出土しました。その大きさから、この建物内に高さ2mを越える塑像仏(丈六仏)が安置されていたと考えられます。

4. まとめ

今回の大きな調査成果は2点挙げることができます。第1に、金剛山麓の当地に飛鳥時代(7世紀後半)の古代寺院を新しく発見したことです。出土した軒瓦には、朝妻廃寺・高宮廃寺との同範瓦があり、同じ「金剛山麓の古代寺院」としての密接な関係を持っていたことが分かりました。北窪古墳群の存在を考慮すれば、二光寺廃寺の建立氏族として、当地に勢力を持っていた渡来系氏族の可能性などが考えられます。また檜隈寺との同範瓦が出土したことも、建立氏族を考える上で重要な手がかりです。第2に数多くのせん仏と螺髪1点が出土したことです。これらの出土によって、建物内部には丈六仏があり、壁はせん仏で装飾されていたという、仏教的な荘厳世界をより具体的に知ることができました。以上のように、飛鳥時代の古代寺院と仏教を考古学的に考える上で、二光寺廃寺は全国的にも例の少ない貴重な古代寺院遺跡であるといえます。

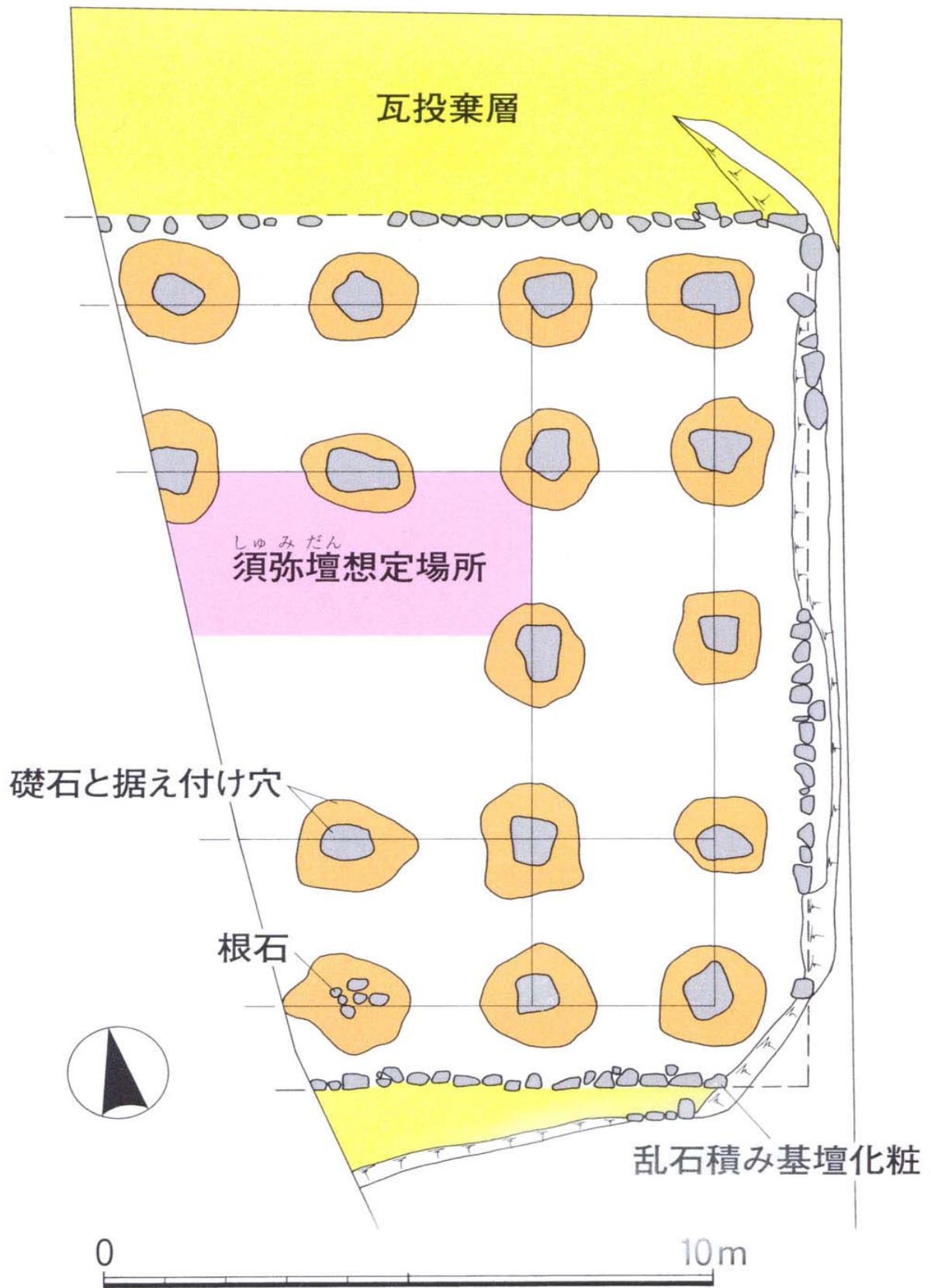
今後、今回検出した建物遺構を含め、伽藍配置・寺域を明らかにするための周辺調査が必要であると思われます。

今回の調査は、西北窪・極楽寺をはじめとする周辺地区の方々、県農林部耕地課、中部農林振興事務所の理解と協力を得て実施いたしました。



第1図 二光寺廃寺と周辺の遺跡

「国土地理院発行 1/25,000 地形図（御所）（五條）を使用」



第2図 礎石建物平面模式図



写真1 基壇と礎石建物1(東から)



写真2 基壇と礎石建物2(南から)



写真3 基壇北側の瓦層検出状況(東から)



写真4 基壇と礎石建物3(南東から)



写真5 大型多尊せん仏(須弥壇紀年銘の細部)



写真6 大型多尊せん仏(須弥壇片)



写真7 大型多尊せん仏(主尊)



写真8 方形三尊せん仏



写真9 方形六尊連立せん仏(朝妻廃寺同範)



写真10 方形六尊連坐せん仏(二光寺廃寺独自)



写真11 複弁蓮華紋軒丸瓦(朝妻廃寺同範)



写真12 複弁蓮華紋軒丸瓦(檜隈寺同範)



写真13 複弁蓮華紋軒丸瓦(高宮廃寺同範)



写真14 重弧紋軒平瓦



写真15 偏向唐草紋軒平瓦
(高宮廃寺同範)



写真16 螺髪

本資料は、奈良県立橿原考古学研究所 廣岡孝信が作成しました。

※橿原考古学研究所附属博物館において、3月5日(土)より3月27日(日)まで、二光寺廃寺から出土した「せん仏」の速報展を開催いたします。

※写真10のせん仏は、当初「方形十二尊連坐せん仏」としておりましたが、その後の整理で「方形六尊連座せん仏」であることが判明致しましたので、ここに訂正させていただきます。

更新日:2005年3月3日